

第2回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(1) 誤答としてはbとdが多かったが、創立されたのと校舎が建てられた時期がずれていることに注意して聞き取りたい。(4) 誤答ではbが多い。メアリーは a play and a rock band と言っているが、ケンジの最後の発言ではバンドの演奏が先にあることがわかる。複数箇所の情報を組み合わせて判断しよう。

問題B

Part 1 (1)～(3)は比較的よくできている。

(4) 質問文には How did Kenji feel …? とあるが、模範解答のように miss を使って答えられた解答は少数だった。また、when he came back to hot and humid Japan とあるので、読み上げ文でもこの表現が使われた前後に注目したい。読み上げ文の最後に「またカナダに行きたい」とあり、この部分を含めた解答が散見されたが、ここでは質問文をふまえて、気候を中心に答えることに注意しよう。

Part 2 スペルミスの減点は各ー1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。(ア)では harder という比較級にできなかった

もの、harder に引かれて from でなく than と書いてしまったものなどが見られた。(イ)では backgrounds を2語に分けてしまったものが意外にも多く見られた。また、前置詞 from は弱く発音されることに注意しよう。苦し紛れに who としている答案もあった。ディクテーションでは一般的に a, of, the のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) (2) は比較的よくできている。(3) 2つの動詞を逆にしたウ→オ→エ→カ→ア→イだと 'Marmalade' means 'marmelo', which drives from (quince in ~) となるが、これでは『「マーマレード」というジャムそのものが『カリン』という果物を意味する』ということになり、直前の文の「マーマレードはカリンから作られたジャムを意味するものだった」と矛盾してしまう。(4) 冠詞 the が付くのは amateur marmalade makers ではなく、「コンテストの出場者」という意味で限定される competitors の方である。

問題B 和文英訳

「スマートフォンを利用した旅行」というテーマでの出題。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

① 「どんな情報でも与えてくれるスマートフォン」は、解説にあるように、制限用法の関係代名詞で書くとき、そうでないスマートフォンもあるような印象を与えるので、コンマを打って非制限用法にすることがポイント。「～にとって代わる」は replace ～ や take the place of ～ を知らないとき、また take place では「物事が起きる」の意味の、別の熟語になるので区別して覚えよう。「～の代わりに…が情報を与えてくれる」と読み換えてもよい。

② 「できるだけ多くの～」では 'as 形容詞+名詞 as' の語順の間違いが散見された。× visit many popular places as many as possible などとしないよう注意しよう。

③ 「解答」のように you can enjoy ～ の形で表せ

ていた解答も少し見られたが、ほとんどが「旅の醍醐味」を主語にして表していた。「事がうまく運ばない」は「計画したように物事を行えない」のように読み換えたものの、英語として不自然な表現が目立った。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の下限の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点、8点、6点、4点、2点、0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

賛成意見としては「勉強時間の確保」「休息や自由な時間に充てるべき」、反対意見としては「まとまった練習時間の確保」といったように具体的に根拠を示している答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけでは主張の説得力に欠けてしまうため、理由は異なる観点から複数挙げると指定語数を満たすのに書きやすかっただろう。

4 長文読解

ジョン・ロールズというアメリカの哲学者が書いた書籍を中心に、経済学の初歩的な理論について解説した文章。内容的にはやや抽象的な部分もあるが、人間は現在の自分が置かれた状況をもとに物事を考えがちである、というところは具体例を挙げて述べているので、イメージをつかめたのではないかな。

(1) 倒置構文になっているのでそれを生かして「中心にあったのは…だった」のように訳したいが、この倒置は、強調のためとも文のバランスを整えるためのものとも考えられるので、通常の訳順にしたものも許容した。state は前の部分から「状況」ではなく「国家」と訳す。「発言；記述」という訳が見

られたが、この意味を表すのは statement である。

(2) 誤答では d を選んだ答案が多かった。これは一般的な考え方から選んだのかもしれないが、本文の記述にはなく、ロールズの主張とも異なる。

(5) 誤答では b が目立つが、「必ず」などの断定的な内容を含む選択肢は、本当にそう言えるのか注意深く本文を確認するようにしよう。

(6) d を挙げられた受験生は少なかった。誤答では c と f が目立つ。もっとも面白い内容でも、本文の論理展開との整合性を確かめることが大切。

5 長文読解

ペットとしての猫の魅力・特徴について述べた文章。全訳も参照しながら全体の内容を再確認しておくとうい。

(1) 空所①について、yet は現在完了の否定文などで副詞として使われるのを目にすることが多いので、接続詞としての意味を推測しにくかったようだ。

(2) as if …を「たとえ…としても」と訳したものなど、この表現が仮定法だとつかめていなかった解答が散見された。続くSVが省略されている点にも注意したい。

(3) while を「…する間は」と訳した解答が多く、it cannot possibly be sufficient 以下は it を to 以下を受ける仮主語と捉えたものや、sufficient の訳出が不十分な解答が見られた。

(4) この段落の第1文をまとめて含めてもかまわないが、その部分のみに終始したものは不可とした。

第2回 高2数学

総評

今回は以下の分野から出題した。

「指数関数」「三角関数」「微積分」「確率」

「図形と方程式」「ベクトル」「数列」

レベルとしては、易・やや易・標準・やや難・難と、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかったが、残念ながら出来がよくない問題もいくつかあった。間違えた問題については、「解答」「解説」を参考にしっかり復習しておこう。また、答案のつくり方についても意識しておくとうい。せっかくわかっている、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

- (1) 不等式の出来はよかったが、方程式の出来はその半分ぐらいだった。できなかった人は指数法則の確認をしておいてもらいたい。
- (2) 三角不等式はよくできており、三角関数のとり得る値の範囲についてもまずまずの出来であった。
- (3) 思ったほど出来はよくない。力では白答が目立った。
- (4) キはよく出来ていた。クの出来は悪く、いろいろな誤答が見られた。

2 微積分

3次関数のグラフと最小値についての問題。

- (1) よくできていた。
- (2) (1) で求めた関係式を t の方程式と見て、その解の個数の話に着させるのがポイントであるが、この読み替えができていなかった。
- (3) a の値による場合分けができていない人が目立つ。とくに、解の公式を使って方程式 $f'(x)=0$ の解を $x=-1 \pm |a-1|$ とし、絶対値の中身の符号で場合分けしておしまいにした人が多かった。このあと、 $a-2$ 、 $-a$ と 0 との大小関係によって場合分けする必要がある。

3 ベクトル

円に内接する三角形を題材にしたベクトルの問題。

- (1) よくできていた。
- (2) 図形的に求めようとして計算ミスした人が多かった。
- (3) 座標を導入して $\triangle PQR$ の面積を求めた猛者もいたが、全体的に出来はよくない。とくに、「解説B」の方法で求めようとして挫折した人が多かった。図形的な見方を身につけておいてもらいたい。

4 図形と方程式

2円の位置関係と軌跡に関する問題。数式処理力と図形的な見方の両方が必要で、難易度は高い。

- (1) 「解説A」の方法で求めようとした人が大半を占めたが、正解にたどり着けたのはほんの一握りであった。根号と絶対値を含む不等式になるため計算は煩雑であるが、根気よく取り組めば解けないので、集中力を切らさないでほしかった。
- (2) X 、 Y を m で表そうとしてミスした人、 m で表すことはできたものの、そこから m を消去できなかった人が多い。この処理は決して難しいものではない。しっかり復習して、確実にできるようにしておいてもらいたい。
- (3) (2) ができていないので、手をつけられなかった人がほとんどであった。見方が面白い問題なので、再挑戦してほしい。

5 数列

漸化式で定められた数列についての問題。

- (1) 一般項を予想しただけの人が少なくない。漸化式の両辺の対数をとった人はほとんどいなかった。
- (2) (1) ができた人は比較的よくできていた。
- (3) 不等式②を立式するところまでもやや難しく、さらに立式後の処理が難しいが、正答にたどり着いた人もちらほら見られた。後半で用いた「式の評価」の考え方は、とくに数学Ⅲにおいて重要であるので、ぜひ身につけてもらいたい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40点)

いずれも答に

- (1) **ア**:5点, **イ**:5点 10点
- (2) **ウ**:5点, **エ**:5点 10点
- (3) **オ**:5点, **カ**:5点 10点
- (4) **キ**:5点, **ク**:5点 10点

2 (40点)

(1) (10点)

接線の方程式を求めて 5点
 答に 5点

(2) (15点)

$g(t)$ の増減を調べて 8点
 答に 7点

(3) (15点)

方程式 $f'(x)=0$ を解いて 3点
 正しく場合分けして 3点
 それぞれの場合の $f(x)$ の増減を調べて 3点
 答に 6点

3 (40点)

(1) (7点)

答に 7点

(2) (13点)

$\vec{OB} \cdot \vec{OC}$ の関係を立式して 6点
 答に 7点

(3) (20点)

$\triangle PQR$ と $\triangle OBC$ の面積比を求めて 10点
 $\triangle OBC$ の面積を求めて 5点
 $\triangle PQR$ の面積を求めて 5点

4 (40点)

(1) (10点)

①, ②が円を表す条件を求めて 2点
 ①, ②から y を消去して得られる方程式の判別

式を求めて 3点
 答に 5点

(2) (15点)

X, Y, m の関係式を求めて 2点
 軌跡の方程式を求めて 6点
 軌跡の限界を調べて 2点
 図示して 5点

(3) (15点)

$\frac{2-Y}{2-X}$ の図形的な意味を捉えて 3点

$\angle DCE$ の大きさを求めて 6点

答に 6点

5 (40点)

(1) (15点)

一般項を推測して 3点
 数学的帰納法で証明して 12点

(2) (10点)

隣接する3項の和 S_k を求めて 4点
 答に 6点

(3) (15点)

P_{3n} 求めて 3点
 n の不等式を立式して 3点

答に 9点

第二回 高二国語

総評

時間制限の厳しさもあってか、白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋めることを心がけよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、話の展開を押さえてから、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
(d) 「二環」を同音異義語の「二貫」とするもの、「二還」「二慣」などと誤るものが目立った。まず文脈を把握し、どのような意味の語が入るのかを確認すること。

(二) (x) 〈正確かつ適切に表現している〉という語義を踏まえた解答はほとんど見られなかった。ニュアンスはわかっているが、三字という短い字数で端的にまとめるのは難しかったかもしれない。この機会に辞書での意味も確認しておいてほしい。

(y) 「採点基準」

「a 人の b 不注意や怠慢から生じる a 災害」と押さえて 5 点

* a 部 3 点、 b 部 2 点。

〈人が引き起こす災害 〉という a 部はおおむね押さえられていた。字数制限を踏まえ、〈過失や無策によつて生じる〉という b 部の要素も含めること。

(三) 「採点基準」

「a 普遍的原理ですべて対応できるとは限らず b 予測できないトラブルの生じる可能性が c 大もとにある」点を押さえて 10 点

* a 部 4 点、 b 部 4 点、 c 部 2 点。
〈普遍的な原理で対応しきれない〉という a 部の要素は押さえられている答案が多かった。だが、それだけでは「根源的な不確実性」とはどういうことかの説明にはならない。傍線部直前の「二〇〇パーセントの安全もそもそもあり得ない」という表現をそのまま使う答案も見られたが、その理由を説明しなければならぬので、「不確実性」を〈予測できないトラブルの生じる可能性〉、「根源的」を〈大もとにある〉などと言い換えてまとめる必要がある。

(四) 「採点基準」

「a トラブルの発生時に自動的にそれを最大限に回避するシステムのフェイル・セイフは、b 無限に作れないがゆえに割り切つて作るしかないのに、その割り切り方が難しく、c しかも、このシステムが働いたとき、それが機械の誤作動か否かの判断も難しい場合があるため」と押さえて 16 点

* a 部 6 点、 b 部 6 点、 c 部 4 点。
〈フェイル・セイフはどこかで割り切らなければ

ならないシステムである〉という要素はおおむね押さえられていたが、「完全なものとは言えない」理由を説明するためには、〈その割り切り方が難しい〉点を明示し、さらに文中で説明されている〈誤作動か否かの判断が難しい〉点まで含めなければならぬ。字数制限が百二十字と多めなので、自分の解答は必要な要素を網羅できているか、因果関係を正しく説明できているかに注意して復習するとよい。

(五) 白答も見受けられたが、おおむねよくできていた。解説で示したように、各段落の論理展開を丁寧に押さえていくことが大切だ。

(六) 誤答は (イ)・(ロ) が目立った。選択肢はいずれももつともらしく見えるが、筆者の「二〇世紀型科学技術」に対する問題意識を押さえ、選択肢一つ一つを丁寧に検討してほしい。

二 小説

(一) (a) (c) ともよくできていた。語句の問題や漢字の問題は確実に得点できるようにしておきたい。

(二) 「採点基準」

「a 激痛に耐える美雪を見守るといふ緊張から解放されて気が緩んだ遠井に b 不意に安楽死の是非という深刻な問いを投げかけ c 衝撃を与える」点を押さえて 11 点

* a 部 4 点、 b 部 4 点、 c 部 3 点。
「横蹴り」なので、予想していなかった衝撃とい

うことになるが、「遠井が思ってもいなかった安楽死」という言葉を持ち出し、遠井の不意をついて驚かせるといふ行動」は説明として物足りない。緊張から解放されて「ほっとした瞬間」に投げかけられた予期しない問いなので、衝撃が大きかったのである。この点からもc部は「困らせる」「困惑させる」程度では弱い。「くらわす」には、「相手の欲しないものを与える」という意味がある。「横蹴りをくらわす」という表現から、遠井の受けたショックの大きさを説明してほしい。

(三) 誤答は(ウ)が目立った。このような選択肢の問題を吟味する際には、問題文と選択肢とを一つ一つ照らし合わせて丁寧に確認していく必要がある。「治療にはさらなる苦痛を伴い、必ずしも助かる保障もないため」は問題文から読み取れない内容である。

(四) 誤答は(イ)が目立った。この選択肢でも、「せめて美雪の前では明るくあろうと決意している」は問題文のこの場面からは読み取れない。

(五) 〔採点基準〕

「a それまでは自分の身に実際に起こるとは思えず、あくまでも想像上のものであった死が b 自分にも十分に起こり得る切実な問題となった」点を押さえ

* a部7点、b部4点。

「死というものが遠井にとつては概念にすぎなかつたが、瀕死の美雪と接したことで、現実味を帯

びてきたこと」といった答案では、「観念の世界」から「波打ち際に流れ着いた」という変化についてはとらえられている。ただ、「彼」の「波打ち際」とあるから、問題文の89・90行目「そして自分の死を思った。怖かった。怖くて眠れなかった」や101行目「遠井は遠井の死を背負って生きていたのだった」といった記述を踏まえて、これが遠井自身の問題である点を明確に示したい。

(六) 誤答は(イ)(ウ)に分散した。それぞれの選択肢の場面と説明が問題文にふさわしいものかどうかを慎重に検討しよう。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

(三) 古文

(一) (イ)の意味を「使役」ととつたものがあつた。ここは「きこえ」が女御への敬意、「させ給ふ」が「帝をはじめ」とした人々への敬意をそれぞれ表している。(ウ)の意味の誤答はさまざまに見られたが、連体形が「るる」となるのは、受身・可能・自発・尊敬の「る」しかないもので、ここから解答の候補を絞れるはずだ。

(二) (a)「おぼえ」にはいくつかの意味があるが、「御おぼえ」となつていたら、「寵愛を受けること」の意であることが多い。(b)は「わたる」の意味を表せていないものが目立った。(c)は「聞こゆる」を「言われている」としたものが多かった。

(三) 〔採点基準〕

「a 承香殿の女御に b 見たい漢籍を貸してほしい」ということを c 申し上げて d くれぬいか」と訳して

* a部2点、b部3点、c部2点、d部1点。

「誰にどういふことを」という点を補つての口語訳だが、補う内容に気をとられたせいかわ、説明問題のように「……ということ」と文末を結んだり、「……ということが聞こえているか」のように「聞こゆる」が正しく訳せていないものが多い。冒頭から、「承香殿の女御」「故式部卿宮」「大将」などの人物名が記されていることに加えて、新たに「蔵人の弁なにがし」「宰相の君」までが登場して、完全に混乱してしまつたようだ。このように登場人物の多い文章では、リード文や注の記述も見落とさずに読み進めよう。

(四) (2) (イ)の誤答がやや目立った。(3) (イ)を選んだ人は「みづから」に「御」が付いていることを見落としたりしたようだ。古文ではこのように敬語の使い方が大きなヒントになる。これからは注意しよう。

(五) 〔採点基準〕

「a 承香殿の女御が父から伝えられた漢籍を持っていたので b 大将に自分の恋しい思いを知らせることができた」点を押さえ

* a b部各4点。

この設問は白答が目立った。解答が書いてあつても、「実際の事実」を正しくとらえられているものは少なかった。たとえば、「書きつくる昔の跡」を「昔

書いた手紙」と解釈したものがあつた。「跡」には(筆跡)の意味が確かにあるが、ここで女御と大将の仲をつなぐきっかけとなつたのは、女御が相続した父の漢籍である。また、「やは」の反語表現を見落として、「知らせることができなかった」と解釈したのも目立った。女性から男性にアプローチするのが、通常の古文では考えにくい状況なので、この歌を大将から女御に送られたものと考えた人もいたようだ。

(六) 誤答は(四)が目立った。「身に添はぬ心」とは承香殿の女御の詠んだ歌にある「心は身にも添はずなりゆく」を受けた表現である。和歌でのやり取りは、このように相手が詠んだ歌にある表現を受けて返歌をすることが多い。問題文に和歌が何首か出てきたら、設問になつている和歌だけでなく、その前後にある和歌にも目配りすることが大切だ。

(七) 誤答は各選択肢に分散したが、(ウ)がやや多い。問題文合致の設問では、表現の細かい点まで注意して読み、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。

四 漢文

(一) (a) 「以為」を「もつてなす」と読んでいるものが目立った。直後に「苦痛なり」という引用が来ており、返り点がついていないことに注意。「為」という字の使い分けについて確認しておこう。

(二) 「無常生死」「其」「禿」といった誤答が見られた。「無常生死」の悩みを相談している患者に対する返答であることを踏まえて考えること。

(三) 「採点基準」

「a 蚊や虻に b 食われるのである」と訳して
—— 4点
* a b 部各2点。

おおむね意味を押しえられているものがほとんどだった。受身で訳出できなかった人は、基本句形を復習しておこう。

(四) 誤答は(四)が目立った。これでは「自分の悩みを真つ先に治してから自分の悩みを取り除く」ということになり、意味が通らない。文脈を正確に押さえよう。

(五) 「採点基準」

「a 我も亦た、b 心に、c 先づ自ら得て d 汝をして又得しむ e べし」と書き下して —— 5点
* a b c d e 部各1点。

特にdの部分の処理が難しかったようだ。「しむ」を「令む」など漢字のままにしてしまった人は、しっかり復習しておいてほしい。

(ii) 「a 私もまた、b きっと c まず第一に自分で長生不死の方法を得て、d さらに e あなたにその方法

を得させるに b 違いない」と訳して —— 6点
* a b d e 部各1点、c 部2点。

「自分が得てからあなたに得させるだろう」という大意はおおむね押さえられていたが、「言葉を補つて口語訳せよ」とあるので、何をさせるのかを明確に示さなければならぬ。第一段落と第二段落で「禿の治療法」から「不老不死を求めること」に話題が転換していることが読み取れない答案が見受けられた。全訳を参考に復習しておくこと。

(六) 「採点基準」

「a 不老不死を得る方法は、b いくらそれを求めても得られないもので、ただ自分が疲労を覚えるだけ」という点で、c 禿の治療法と同じだから」と押さえて —— 9点

* a 部2点、b 部5点、c 部2点。

白答の答案も目立ったが、復習の際はぜひ自力で解答を作成してみたい。まず傍線部を口語訳し、設問で問われているポイントを探る必要がある。(禿の治療法が存在しない)という要素をふくませようとしている答案が目立ったが、全体のまとめに当たる設問なので、(不老不死を求めることの不毛さ)という第二段落の内容を踏まえて説明すること。